

平成28年度国文学研究資料館 特別共同利用研究員受入要項

1. 目的

大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、当館に「特別共同利用研究員」を受け入れ、必要な研究指導を行う。

2. 特別共同利用研究員

特別共同利用研究員とは、国立大学法人法に基づき、大学共同利用機関である国文学研究資料館において研究に従事し、併せて研究指導を受ける大学院学生をいう。

3. 受入人員

10名程度

4. 受入対象

大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、日本文学、歴史学及びこれらに関連する分野を専攻する者

5. 受入期間

平成28年4月 ～ 平成29年3月

なお、特別共同利用研究員の研究状況により、所属する大学院及び本人の申出があった場合、館内で審査のうえ1年の延長を認めることがある。

6. 研究指導場所

国文学研究資料館（東京都立川市緑町10-3）

7. 指導教員及び研究指導分野

特別共同利用研究員の指導教員及び研究指導分野は別紙「国文学研究資料館 特別共同利用研究員 研究指導概要一覧」のとおり。

応募書類を提出する前に、希望する当館の指導教員に必ず連絡を取り、研究指導の方法や内容等について相談した上で応募手続きを行うこと。希望する教員への事前連絡がない場合、原則として応募の受付を行わない。

なお、希望する指導教員以外が研究指導を行う場合がある。

8. 提出書類

- (1) 所属する大学院研究科長の委託書（様式1）
- (2) 所属する大学院指導教員の推薦書（様式2）
- (3) 当該学生の在学証明書及び成績証明書
- (4) 当該学生の略歴（様式3）
- (5) 研究業績（様式4）
- (6) 研究計画（様式5）

9. 提出期限

平成28年4月15日（金）（必着）

10. 研究指導に係る費用

無料とする。

11. 受入の決定

提出された書類に基づき、当館大学院教育委員会で審査の上、館長が決定し、その結果を所属する大学院の研究科長及び本人に通知する。

12. その他

- (1) 特別共同利用研究員制度により受け入れた学生に対する単位の認定及び学位論文の審査や学位の授与に関しては、当該学生が在籍する大学院で行うことを前提としており、当館は直接関与するものではありません。
- (2) 当館では、災害補償制度は準備しておりません。あらかじめ所属大学で、財団法人日本国際教育支援協会の行っている学生教育研究災害傷害保険等に加入してください。
- (3) 当館は、特別共同利用研究員の宿舍の用意はありません。
- (4) 当館の研究、事業および教員紹介については、ホームページ (<http://www.nijl.ac.jp/>) を参照してください。

【関係書類の提出先及び問合せ先】

〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3
国文学研究資料館
総務課 教育支援係

TEL : 050-5533-2915

FAX : 042-526-8604

E-mail : edu-ml1@nijl.ac.jp

平成28年度 国文学研究資料館特別共同利用研究員 研究指導概要一覧

分野	研究指導概要		指導教員
古代文学	『源氏物語』の異本と異文に関する研究	『源氏物語』の各種古写本における異文を対象として、多様な本文の位相を考察する。『源氏物語』の本文研究は、昭和十三年以降ほとんど進展していないのが実状である。データベースを活用して探求していく。	伊藤 鉄也
中世文学	中世文学の研究、特に和歌に関する研究	院政期以降の和歌につき、その中世的な特質を具体的な資料に即しながら検討する。とくに場や歌人の活動、表現の変遷等に関する新たな観点からの再検討を試みることで、中世和歌における諸問題を、和歌史全体を視野に収め、先行説を見据えた上で考え直したい。	寺島 恒世
	中世文学の研究、特に室町期の物語や語り物に関する研究	室町時代から江戸時代の前期にかけて流布した御伽草子と呼ばれる物語や語り物である幸若舞曲の形成について、主に文化史的な環境から研究する。また、それらが多く絵入り本(絵巻・絵本)で伝承された意味についても考察したい。	小林 健二
	中世文学・中世芸能の研究	中世の文学および芸能について、それらに関わる資料の調査と分析を重視しつつ作品研究を行う。	落合 博志
	中世文学の研究、特に説話に関する研究	中世から近世にかけて、寺社を舞台として伝承された説話や室町物語などを主な研究対象として取り上げる。これらと関連する絵画資料や郷土資料、民俗資料等を視野に入れ、作品の成立基盤や時代背景、および関連する人物などについて考究し、文学史的位置付けを行う。	齋藤真麻理
	和漢比較文学および域外資料の文学的研究	日本文学に影響を与えた漢籍の分析と受容の研究、あるいは文学領域外の資料の学問体系の分析を行うことを通じて、その知識体系の分析と、文学への根底的影響の展望を求める。今年度は、観相資料の分析を主に進めている。	相田 満
	中世和歌、堂上の学問と儀礼に関する研究	中世の和歌、歌学書、注釈書、伝書などの諸論書、及び、中世から近世初頭にかけて著された堂上公家の学問と儀礼に関する諸文献や記録資料につき、文献学的検討を通じた資料批判と検討を行い、その文化史的意義について考える。	海野 圭介
	中世和歌の表現に関する研究	中世和歌について、特に表現面から研究を行う。中世和歌は、先行する古典作品(和歌・漢詩・物語)や注釈書など、様々な知識と読解の堆積の上に表現が形成される。周辺領域にまで目を配り、さらには本文批判を踏まえて作品の読解にあたる。	小山 順子
近世文学	草双紙・浮世絵等の書誌的・註釈的研究と、周辺文芸との関わり	近世期草双紙や浮世絵等の書誌的・註釈的研究。草双紙においては、歌舞伎・浄瑠璃との関わり、浮世絵においては、文芸との関わりや受容等を明らかにする。	山下 則子
	書物交流に関する研究	漢籍をはじめとする書物の伝来、流布と、それをめぐる様々な史実に関する研究。とくに日中両国間における書物の移動と日中文化交流を中心とする。	陳 捷
	和歌史ならびに古典学の研究	私撰集・私家集・歌論歌学書などの歌書に基づいて、堂上と地下の諸問題、近世における注釈の種々相などを具体的に追究する。また、歌壇史・文壇史研究を射程に入れた伝記研究にも留意したい。	神作 研一
	近世出版文化の研究	出版物を様式的に把握することを目的とする。写本と同様、出版された書物にも大きさや装丁など、様式がある。写本に比べ、手工業製品としての出版物は、技術的・経済的理由により、強固に様式化される面も見られる。出版物のモノとしての側面に光をあて、様式上の問題を、具体例に則して考察してゆく。	入口 敦志

分野	研究指導概要		指導教員
近代文学	近代文学の研究	近代文学成立期における言説編成の研究	谷川 恵一
	近代文学の研究	1910年前後の文学を対象に、出版メディアと社会の様態変容を視野に入れつつ、社会文化史的に研究する。	青田 寿美
情報学	文学情報処理	情報検索やマイニングなどの情報処理技術を応用した、日本文学研究に有用な電子資料データベースシステム構築について、日本文学研究の実フィールドでの評価・検証を行いながら、研究する。	古瀬 蔵
	文学情報処理	古今の文学テキストを題材にして、自然言語処理の立場からコンピュータを利用したテキスト解析手法について実証的な研究を行う。	野本 忠司
日本史学	幕府・藩の組織構造と文書群の史料学的研究	幕府・藩の組織構造と文書群の関わりに注目し、文書の発生、文書群の形成、文書の授受、管理システム、各種文書のライフ・サイクル、当時の文書認識、文書群の伝来などについて検討する。史料を取り扱う人々の基礎的な研究となることを目指したい。	大友 一雄
	記録史料の保存管理史・保存科学に関する研究	多様かつ膨大な記録史料を永く物理的に保存するため、保存管理の歴史的特質を明らかにするとともに、保存科学的観点からの環境管理方法や材質分析についての研究を行う。	青木 睦
	近世情報史の研究	近世都市の災害情報について考える。具体的には、①情報伝達と災害対応、②災害対応・対策の情報蓄積、③情報の伝播、という三つの論点がある。	渡辺 浩一
	公家家職の地域展開と地域資料	主に近世の公家家職が地域の人びとにどのような広がりをみせたか、地域に遺された資料群総体の中で考える。近世天皇・朝廷研究に収斂することなく、地域史のひとつとして研究を行う。	西村慎太郎
	幕府・諸藩の地域行政に関する史料学的研究	各地の奉行所・代官所や村方・町方に遺された史料群の構造分析を通じて、江戸幕府・諸藩の地域行政のあり方を考える。特に、各地域の自然環境や生産活動などの違いに伴う文書類の作成・管理・保存の相違や特色などにも注目して研究を行う。	太田 尚宏
	近現代文書管理史研究	公文書の作成から廃棄・保存にいたる管理システムの変遷の歴史および公文書を補完する私文書の特性について、具体的文書を参考にしながら研究を行う。	加藤 聖文
アーカイブズ学	多様かつ膨大な記録史料(アーカイブズ)を永く保存し、現代と未来の社会に活用するための学問であるアーカイブズ学について幅広く研究する。記録史料論、記録史料管理論を柱にして、記録史料の収集・整理・保存・利用に関する研究を深める。	大友 一雄 青木 睦 渡辺 浩一 西村慎太郎 太田 尚宏 加藤 聖文	